

長命寺

千葉県野田市上花輪

千葉県野田市にある長命寺は真宗大谷派の寺院で、その開基は親鸞聖人の高弟で二十四輩中の第七番、西念坊である。

西念はもともと信濃国（長野県）の人であったが、親鸞聖人が越後国（新潟県）に在った時に出会い、浄土真宗の教えに帰依をした。親鸞聖人が関東へ教化活動をされる際にも随行し、野田郷に至って堂宇を建立した。正応元年（1288）、本願寺第三代である覚如上人が巡回した際、西念は107歳という長命であり、その徳を讃じられ上人より長命寺という寺号を賜ったのが由来である。その後長命寺第三代



長命寺 本堂

西祐の時、建武の乱において寺は破却され、信州へと移りそこで寺を再興したが、江戸時代末期に野田にも真宗の教えをとという願いの中から再興され、現在に至っている。

寺には聖徳皇太子堂と呼ばれる聖徳太子をまつたお堂があり、また親鸞聖人御手植と伝えられる菩提樹がのこされている。

長命寺・お手植えの菩提樹

建保元年（1213）、親鸞聖人が関東野田郷にある高梨家に逗留中、この地における念仏繁盛を願い、菩提樹の数珠一玉を柳の葉につつみ桑の葉をおおって地中に埋めたところ、後に芽を出し大樹となったと伝えられている。



長命寺 お手植えの菩提樹

長命寺 太子堂・太子像

親鸞聖人御自作とされる、聖徳太子十六歳の時の孝養の木像が安置されており、毎年四月には太子講と呼ばれる法要が勤修される。またこの地において、太子は「八職の神」として祀られており、三月には樽屋、十月には職工人による太子講がお勤めされている。



長命寺 太子堂



長命寺 聖徳太子像

